

『ムゲンとカギリ』はじまり

樋口ミユ

登場人物

背負い劇場屋

ムゲンの猫

カギリ

ムテキ

ヘンテコな奴がやってくる。

背負い劇場屋 こんにちは。

ヘンテコなものを背負って。

背負い劇場屋 見てください。

くるっと背中を向けた。

背負い劇場屋 これは劇場です。

ランドセルみたいに。

背負い劇場屋 背負っております、しっかりと。そしてさらに見てください。

スイッチオン。

背負い劇場屋 ピカピカにだって光っちゃいます。

ピカピカと劇場が光る。

背負い劇場屋 ワタシの仕事は劇場背負う背負い劇場屋。劇場背負って歩いて旅をして、出会う人出会う人に劇をね、観てもらいます。なかなか楽しいお仕事ですよ。

背負い劇場屋、背負い劇場を背中から降ろして。

背負い劇場屋 さああああ始めますよおおお。はい、拍手拍手ー！

と、意気込んで、観客たちに拍手を求めたくせに。

背負い劇場屋 し。

突然真っ暗。背負い劇場のピカピカだけ。

背負い劇場屋、ひそやかに語り出す。

背負い劇場屋 見てください。聞いてください。これはね、とつてもとつても
大事なお話の始まり。むかしむかしあるところに……って、お話の始まりはみ
んな同じ。だけど背負い劇場のお話はね、昔じゃなくて未来のお話だから、こ
う始めます。「みらいみらあるところに」

背負い劇場屋は、その指に小さな人形を持ち、

コトリと、背負い劇場の中に置いた。

背負い劇場 猫がおりました。

猫の人形。だけど普通の猫じゃない。

背負い劇場屋 だけど普通の猫じゃありません。この猫、永遠に生きる猫。無
限に生きる猫。この猫の体は毛皮じゃなくてね、100年経ってもそのまんま
ガラス、プラッチック、ビニール、ゴミで作られた、永遠に死なない猫。にや
おとおおおん！

ムゲン によおおおおおん！痛いにや。だれにや。我輩のビニールの尻尾を
掴んだのは！？

背負い劇場屋 ゴミの猫、ゴミの山から現れた。

今度は人間の人形を劇場に置いた。

カギリ つつくりしたあ……！

背負い劇場屋 驚いたのはゴミを拾って生きている少年。名前をカギリと言う。

カギリ これ……ゴミ？ネコ？どっち？

ムゲン にやぎい！尻尾掴むのは猫の正しい取り扱い方にやいぞ！

カギリ あ、ネコなんだ。

ムゲン どっからどうみても。

カギリ ペットボトルとビニールなのに、

ムゲン この中には、スコーなたまつすいというものが在るのだ。

カギリ なんかしゃべってる。

ムゲン にや。

カギリ 売ったらいくらになるかな。

ムゲン 貴様！命を売るとはナニゴトぞ！？

カギリ ゴミ？命？どっち？

ムゲン 未熟とは罪。少年よ、このペットボトルの透明をもっと見抜くの

だっ！

カギリ 空っぽだよ？

ムゲン おばかにやん！

ネコは自分の体で少年の頭を叩く。

マヌケな音。

カギリ つてえ！でもバカじゃない。
ムゲン に。

カギリ アルミ缶は1キロたったの130円。スチール缶は1キロ驚きの10円。ペットボトルのキャップは500個で10円。ボトル本体はポイント還元のみ。この仕事、割に合わないって思ったやつはバカ。ゴミの山は宝の山。僕が拾ってお金に変えているのはモノじゃなくて、情報、名前、住所、電話番号、個人情報、明細、銀行口座、クレジットカード、生活パターン、レシート、趣味、思考、そこら辺の中小企業サラリーマンより稼いでるよきつと。

背負い劇場屋 ゴミの猫、少年をじっと見つめた。

カギリ えなに？

背負い劇場屋 ゴミの猫の目は、悲しい色になった。

ムゲン お前さん……にやぜに働く？その若さで。

カギリ 稼がなきゃメシが食えないし、夢も叶えられない。

ムゲン 父はどうした？母はどこにいる？

カギリ いない。知らない。見たこともない。

背負い劇場屋 ゴミの猫、深いため息をついた。

カギリ だけどハッピーだ。かぎりなく自由だから。

ムゲン そりゃ強がりか？

カギリ かわいそうとか勝手に決めつけるなよ。さてはゴミの猫、お前、頭の硬い年寄りだな？

ムゲン 確かに今年で100年生きとるにや。

カギリ ネコ、ウソついた！

ムゲン ネコ、ウソつかにやい！

カギリ 猫の平均寿命は18年！

ムゲン 我輩はゴミの猫。これは死なない身体。我が名はムゲン。
カギリ ムゲン？

ムゲン そう名付けられた。

カギリ 本気で？

ムゲン にゃ？

カギリ 本気で死なない？

ムゲン 100年、生き続けてこれからも生きる。

カギリ どこで買ったその身体？ 死なない身体は人類の夢。

ムゲン ゆめ？

カギリ だってムゲンの身体を買うためにみんな必死で働いているだろう？

ムゲン いつからそんな時代になった！？

カギリ 年寄りだから時代に乗り遅れてんだな。今の小学生のなりたい職業ランキングナンバーワンは、ムゲンの身体を持つパティシエらしい。

ムゲン にゃんだかそいつの作ったケーキは食べる気がしない……！！

カギリ でもムゲンだ。死なない。どこで買ったその身体。教えて欲しい。

背負い劇場 ムゲンの猫は、じっと少年を見た。

ムゲン ムゲンの命が欲しいのか？

カギリ 誰でも欲しいだろ。

ムゲン しかしムゲンに生きて何を見る？

カギリ は？

ムゲン ムゲンに生きて何を思う？

カギリ なに言ってるの？ 誰だって死にたくない。

ムゲン ムゲンとは、いっぴきぼっち。

背負い劇場屋 ゴミの猫、鼻をヒクヒクさせて、はるか遠い昔の匂いを嗅ぐ。

ムゲン 我が名はムゲン。これはあの子が、ムテキがくれた。

イキナリ観客に向かって。

背負い劇場屋 お芝居とはっ。時間が急に昔になったり、かと思ったら未来になったり、場所も突然変わったりすることがありますのでご注意ください。
今はね、

背負い劇場屋、今度は小さな女の子の人形をコトリと置いた。
少女、すすん泣いている。

カギリ ムゲンの猫、これはお前の思い出？
ムゲン にゃ。

背負い劇場屋 思い出タイムのはじまりです。

背負い劇場屋、さらに少女の前に小さなお墓を置いた。

背負い劇場屋 ムゲンの猫が、まだフツの猫だった頃。どうやらこの子、飼
い主の少女。そしてムゲンの猫は……

ムゲン 我輩、一度この世におさらばした。

カギリ え！？

ムゲン うっかり道路に飛び出して、車がキキキ……！よくある。あの子はナ
ンにも悪くない。

カギリ じゃ、一度死んで生き返った？

ムゲン にゃ。

カギリ にゃじゃない、そんなのありえ、

ムゲン ありえる。だってあの子はムテキだから。

カギリ、ハッと少女を見ると、すんすん泣いていた少女が突然。

ムテキ いつまでも泣いてンな！ あたし！

カギリ ビクッ！

ムゲン ムテキは最強の女の子。

ムテキ あたし、神様にクレーム、じゃなくて宣言する。ちよつと！

背負い劇場屋 少女ムテキは天に向かって指さした。

ムテキ 神様！

背負い劇場屋 はい、なんでしょ。

再び観客に。

背負い劇場屋 あ、えとですね。お芝居って、ひとりの人がいくつも役を演じることがあります。ナレーションを担当していたワタシ、今は神様役になりま
すね。

ムテキ 神様、ちよつと顔かして。

背負い劇場屋 はいはい。逃げも隠れもせぬよ。

ムテキ あたし、大好きなあたしの猫とずっと一緒にいたい。

背負い劇場屋 とはいえ少女よ、すべての命はカギリあり。神様でも出来るこ
とと、出来ないことが、

ムテキ 神様にナンかしてもらおうなんて思っ
てない。

背負い劇場屋 じゃなぜ呼んだ！？

ムテキ あたしは無敵。向かうところ敵なし。

背負い劇場屋 それは勇ましい。

ムテキ そうじゃない。敵がいなくて
ことは味方ばかりってこと。

背負い劇場屋 ん、とんちかな？

ムテキ 応援して。

背負い劇場屋 うん？

ムテキ あたしが奇跡を起こせるように、神様、応援して。

背負い劇場屋 どんな奇跡を？

ムテキ 宣言する。あたし、この子に死なない身体を作ってあげる。だから帰っておいで、あたしの猫、ムゲンの猫。

少女はゴミをあさる。

ムゲン ふわふわの毛皮は、透明ペットボトルに。ぷにぷにの肉球はグニグニのシリコンゴムに。するんとした尻尾は、つるんとしたビニールに。プラスチックのボタンが目玉になって……

背負い劇場屋 さて、猫よ、どうする？

ムゲン どうするって、神様……

ムテキ お前はムゲン、お前はムゲン、お前はムゲン、あたしとムゲンの命を生きるのよ。ずっとずっと一緒に、寂しくない。寂しくない。一緒にムゲンを生きるのよ、お前はムゲン、お前はムゲン、お前はムゲン……

少女はぎゅっとムゲンの猫を抱きしめた。

ムゲン この子をいつきぼつちにできないにや。

背負い劇場屋 人間は、いつきじゃなくて、ひとりぼつちと言うのだよ。

ムゲン あんね、神様、この子はね、ムテキはね、我輩が見つけました。おんぎゃあ泣く小さな赤ちゃん。我輩も一緒に泣いた。にやおおおん、一生懸命泣いて知らせて、ここにいろよ、人間、誰か気づいて、助けてやって、にやおおおん……！ それからずっと一緒にいる。よちよち歩き始めたのも見えました。はじめてお米を食べたのも見てました。いつも我輩のもふもふの毛をなでてくれるんです。あったかいつて笑うんです。あんなに泣いてる、も

うね、これ以上ね、悲しませたくないですよ……

背負い劇場屋 では猫よ、今、お前が選びなさい。

ムゲン に。

背負い劇場屋 運命を受け入れて天国の階段を駆け上がるか、それとも、

ムゲン も？

背負い劇場屋 あの子が作ったあの身体の中に入って永遠に生きるのか。

ムゲン えいえん。

背負い劇場屋 天国の階段は一度しか現れない。生まれるのも一度きり、死ぬのも一度きり、わかるかい？

ムゲン 一度きり……

背負い劇場屋 お前が自分の人生、いや。猫生を今選びなさい。

ムゲン やっぱり神様が、奇跡ってやつを起こしてくれるんですかにかや？

背負い劇場屋 お前だよ。

ムゲン にか？

背負い劇場屋 お前が選ぶことが、すべて奇跡になっていく。

ムゲン じゃあ、神様……応援してください。

背負い劇場屋 ムゲンの猫がそう言うのと、動くはずのないペットボトルが、シ

リコンゴムが、ビニールが、少しずつ、

ムテキ あ……

背負い劇場屋 動き出した。

ムテキ ムゲン！お前はムゲン！あたしと一緒に生きる。

ムゲン 我輩が自分で選んだんだ。だからムテキはなんにも悪くない。

Theater 4

背負い劇場屋 それからどうなったか？

背負い劇場屋 少女ムテキとムゲンの猫はそれはそれは楽しく暮らしました。

10年経って少女はムテキの女性になって、20年経ってムテキの母親になって、30年、40年、50年、60年、70年……とうとうムテキのおばあちゃんになってそれから……

ムゲン ムテキ……

背負い劇場屋 笑いながら、ムテキは天国の階段を駆け上がりました。

ムゲン ムテキー……！！

背負い劇場屋 ムゲンは、いっぴきぼっちになって。

ムゲン ムテキがいないと、1日が長い、長いにやあ……

背負い劇場屋 そうしてまた10年、20年、30年、ムゲンだから生き続ける。想像できるかい？ いつまでもいっぴきぼっち。

ムゲン さみしいにやあ……

背負い劇場屋 その苦しさを、想像できるかい？

ムゲン ああ、だけど……こんなにさみしい思いをするのがムテキじゃなくて本当に本当によかったにやあ……

背負い劇場屋 ムゲンは笑って泣きました。その身体から涙は流れない。見えない寂しさが透明のペットボトルにたくさんたくさんたまっていきました……

Theater 5

ムゲンの猫がにやあと泣いた。

背負い劇場屋 はい。思い出のシーンはおしまい。そして時間はもとどおり。ムゲンの猫と少年カギリ、このいっぴきとひとりが出会った運命やいかに。

ムゲン いっぴきぼっちの気が遠くなるような時間。少年、それでもお前はムゲンの身体を欲しがるかにゃ？

カギリ 欲しいね。

ムゲン お前さん、我輩の話、聞いてたか？ ああ、若さとは未熟よ。

カギリ いっぴきだから苦しいんだろう？

ムゲン にゃ？

カギリ 僕もムゲンになったらさみしくなくなる。

背負い劇場屋 ムゲンの猫、小さなアルミの心臓がドキンとふるえた。

ムゲン な、なんの話だ……そういうことじゃない、我輩はだな、命というの
は、

カギリ さみしかったんだろ？

ムゲン ……

カギリ ほら、行くぞ。

背負い劇場屋 カギリは歩き出す。ムゲンはずいぶんいっぴきぼっちだったの
ですぐには素直になれず、

ムゲン わ、我が名はムゲン。少年、まだお前の名前も聞いてない。名前も知

らないヤツなんかと、

カギリ カギリ。

ムゲン に？

カギリ カギリあるものばっかりでできてるから、カギリ。自分で名付けた。それで、来るのか来ないのか？

背負い劇場屋 ムゲンはハツとお空を見上げました。

ムゲン に。

背負い劇場屋 少女ムテキがいつてらっしゃいと手を振るのが見えた。

ムゲン にや。

背負い劇場屋 ムゲンの猫は、少年カギリの腕を駆け上り肩に乗っかり、

ムゲン にやあ。

背負い劇場屋 と、鳴いた。そしてここから、ムゲンとカギリの旅物語が始まります。カギリは果たしてムゲンの身体を手に入れられるのかっ！？ ハッ！

背負い劇場屋は勢いよく背負い劇場を背負う。

背負い劇場屋 だけど今日はここまで。この続きはまた別のお話。それでは皆さま、またお会いしましょう。

背負い劇場屋はまたどこかへ歩いていく。

おしまい